

# 銀色の疾風 激闘の予感



## きょうクリテリウム

世界のトップ選手が集結する自転車ロードレース「2016 ツールド・フランスさいたまクリテリウム」(さいたま市主催、朝日新聞社などオフィシャルメディアパートナー)は29日に号砲が鳴る。レースを控えた海外招待選手ら7人が28日、さいたま市内で意気込みを語り、地元の高校生らと交流した。

## 好調 別府選手「表彰台狙う」



4回目の今大会は、ツール・ド・フランス本大会で



餅つきを体験するクリストファー・フルム選手(右)ら。さいたま市スーパードーム前、さいたま市中央区新都心3丁目

その年の主要4賞を獲得した4選手が初めてそろって来日した。今夏総合優勝を果たし、第1回さいたまクリテリウムの優勝者でもあるクリストファー・フルム選手(31、英)は会見で「厳しい戦いになるが、今季最後のレースを笑って終われるよう頑張りたい」。

22日のジャパンカップクリテリウム(宇都宮市)で日本人初の連覇を遂げた別府史之選手(33)は「海外選手に負けず、表彰台を狙いたい」と意気込んだ。

会見後は地元の人々との交流会があり、岩槻高校の生徒が英語で岩槻人形を紹介。選手たちも和装でジャンボひな壇に登ったり、餅つきを体験したりした。

その様子を、ツール本大会で5回の総合優勝に輝き「伝説のチャンピオン」と称され、今大会のアンバサダー(大使)役を最後に自転車界の一線から退くベルナルド・イノー氏(61)は「世界的な競技として広ま

っているのを実感した。日本でキャリアを終えられ光榮に思う」と話した。

海外、国内の計51選手が競うメインレースは午後3時から。国内からの出場チーム「マトリックスパワータグ」は、向川尚樹、近谷

源、アイラン・フェルナンデス・カソラの3選手が辞退し、橋本凌甫、金子大介の2選手を追加した。

開催に伴い、午前8時半〜午後6時半は、JRさいたま新都心駅周辺で交通規制がある。(松本麻美)